

100年前のニューウェーブ

正チャンの冒険、親爺教育、ノンキナトウサン、そして震災

現代のマンガはどこから来たか？

コマやフキダシが並び、キャラクターが活躍してストーリーが展開する現代の「マンガ」。これは一体、いつ、どのようにして、成立したのか？ その問いを考える重要な手がかりとして「1923年」に注目し、この年に連載が始まった3作品をとりあげ、漫画史における意義を検討します。

日時：2023年12月23日（土）13時20分～17時

場所：学習院大学 西5号館 202（東京・目白）

申込不要／入場無料

【第1部】13時20分～15時30分

趣旨説明・佐々木果（学習院大学人文科学研究科教授）

正チャンの冒険について・宮本大人（明治大学国際日本学部教授）

親爺教育について・三浦知志（尚絅大学現代文化学部准教授）

ノンキナトウサンについて・新美琢真
（京都国際マンガミュージアム学芸室員）

【第2部】15時45分～17時00分

討議（宮本／三浦／新美／司会・佐々木）

コメンテーター：夏目房之介（元・学習院大学人文科学研究科教授）



主催：学習院大学人文科学研究科
学習院大学大学院人文科学研究科 身体表象文化学専攻
共催：学習院大学文学会